

西ヨーロッパ諸国のルネサンス

イタリアに生まれたルネサンスの運動はアルプスを越えて広まったので【1: 】とも言う。

しかしルネサンスは、桜前線のように徐々に北上したのではない。南北交易路を通じて北イタリア諸都市と密接な関係があり、毛織物工業で繁栄していたアントウェルペン（次いでアムステルダム）、ブリュージュなどフランドル地方（今日のベルギー）から、ネーデルラント（今日のベルギー・オランダ）全体へ、次いで西ヨーロッパ諸国へという順にルネサンスは開花した。地域によっては宗教改革と同時進行の時期もある。

市民層の台頭を地盤として、国ごとに特徴のあるルネサンスの展開を見た。時期別に地域ごとに見る。

1) 北方ルネサンスの萌芽はすでに15世紀に見られた！（イギリスでは14世紀に先駆者あり）

《ネーデルラント》 注：ネーデルラント である。ランドではない。

①【画家】【2: 】 1366?-1426, 1380?-1441 Van Eycks 油絵（油彩）技法を完成させた。まだ15世紀である！兄弟は油絵を発明したのではなく、油絵の技法をその真価が正しく生かせるように、急速かつ高度に発揮させた。画家としてはフランドル派を開いた。作品は聖バヴオン教会（ガン）の祭壇画『神秘の仔羊』※（1432）など。

※ この作品は、なぜか図説に載っていないことが多いがネット上で見ることができる。色彩が鮮やかである。

【2】は、後掲のファン=ダイク（1599-1641）とは全くの別人であり、時代も1世紀以上離れている。

《ドイツ》

②【技術者】【3: 】 1400?-68? Gutenberg 1450年ごろ金属活字による【4: 】を創始。『四十二行聖書』など安価な書物（価格は写本の十分の一）の普及を促した。特に『聖書』の普及は宗教改革に貢献した。

ただし、金属活字による活版印刷術は200年も前の13世紀の高麗で既に実用化されていた。

製紙法は2世紀の中国で改良され、8世紀にはイスラーム世界に伝わり、13世紀にはヨーロッパに達していた。No.35

《イギリス》

③**チオーサー** 1340?-1400 Chaucer なんとまだ14世紀！彼は、イギリスにおけるルネサンスの先駆者である。英文学史上最初の傑作とされる『カンタベリー物語』をロンドン方言で書いた。『デカメロン』を書いた**ボッカチオ** フィレンツェ1313-75の影響を受けた同時代人である。

2) 16世紀前半のルネサンスと言えば、まず**エラスムス**と**トマス=モア** 二人は親友

《ドイツ》 ドイツの**人文主義**（ヒューマニズム、No.96参照）は聖書の原典研究から出発した。宗教改革運動とも密接な関係を持つ。

④【5: 】 1455-1522 Reuchlin 人文主義者。ヘブライ語研究から『旧約聖書』原典研究の道を開く。

⑤【6: 】 1497-1560 Melancthon 人文主義者。ルターの最大の協力者。学校教育改革に尽力。

⑥【7: 】 1469-1536 Erasmus オランダ生まれだが主にドイツで活躍した。

⑥は、古典と神学に通じた「16世紀最大のヒューマニスト」である。聖書研究を通じて宗教改革への橋渡しをしたが、宗教改革には同調せず各派の和解を説き、ルターとは論争した。代表作、『【8: 】』（ぐしんらいさん1509年）で聖職者や王侯の腐敗を女神の口を借りて痛烈に風刺した。『校訂版 新約聖書』（新約聖書のラテン語・ギリシア語対訳、Novum Instrumentum）は広く読まれ、マルティン=ルターのドイツ語訳聖書の原典になった。

《イギリス》

⑦【9: 】 1478-1535 Thomas More 16世紀イギリス人文主義の創始者。エラスムスの親友。弁護士で政治家。代表作『【10: 】』で拝金主義を助長する当時のイギリス社会を徹底的に風刺、批判し、理想社会を説く。特に、「羊は昔はおとなしい生き物だったが、今や人間を食うようになった・・・」というエンクロージャーに対する批判は有名。大法官の地位まで上りつめたが、ヘンリー8世の離婚に反対し、**大逆罪で処刑された！**

《フランス》 理知的・批判的精神に満ちカルヴァン、デカルトを経て18世紀の啓蒙思想に連なる。

⑧【11: 】 1494?-1553 Rabelais フランスルネサンス前期の代表的作家。本業は医師。代表作『**ガルガンテュア（とパンタグリユエルの）物語**』は架空の巨人父子の奔放な生きざまにことよせて時代を風刺した。

《ネーデルラント》

⑨【画家】【12: 】

1528-69 Bruegel

フランドルの画家。油絵と銅版画。農民の生活を描き**農民画家**とも呼ばれた。

左の作品は『農民の踊り』である。『農民の婚礼』と一対の作品だったとする説もある。『七つの大罪』も彼の作品。

『農民の踊り』 ブリュエゲル

《ドイツ》

⑩ [画家] デューラー 1471-1528 Dürer ドイツルネサンスの先駆的な画家。深い精神性を秘めた重く沈んだ画風が特徴。左の作品は『四使徒』(1526年、『四人の使徒』とも言う)。版画も多数残している。

⑪ [画家] ホルバイン 1497-1543 Holbein 06J
ドイツの画家だが、独・伊で活躍後、イギリス宮廷画家となる。ヘンリ8世、エラスムス、トマス=モアなどの肖像画で知られる。右の作品は『エラスムス像』である。 06J

『エラスムス像』
あるいは単に『エラスムス』
ホルバイン

『四使徒』 デューラー

3) 16世紀後半以降のルネサンス

《イギリス》

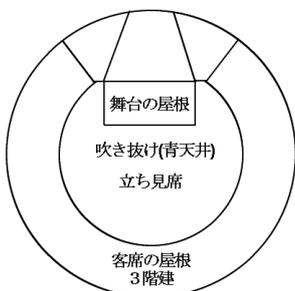
⑫ 【13:】 1564-1616 Shakespeare 16世紀後半以降エリザベス女王時代に活躍！世界最大の劇作家とされる。

『オセロー』『ハムレット』『マクベス』『リア王』は**四大悲劇**として知られる。

『ベニスの商人』『ヘンリー4世』『ハムレット』『ロメオとジュリエット』『アントニーとクレオパトラ』など現在よく知られている作品だけでも合計30数本。同時代の貴族の間では主に**詩人**として評価されていたが、後世最も偉大な**劇作家**として評価されている。グローブ座専属戯曲家。作品で使われた英語を通じて、国語としての**英語の確立**に貢献した。英語はアングル=サクソン系の人々が持ってきた「古英語」を起源とし、フランス語、ラテン語の影響を受け、綴りと発音がかげ離れる現象も起きた。14世紀の『カンタベリー物語』(チョーサー)やシェイクスピアの諸作品などの国民文学、16世紀に原語から直接訳された『聖書』の英語などの影響で、今日の英語が形成された。

これはヨーロッパの他の国も同様で、ルネサンス期から**ラテン語に代わって【14:】**が用いられるようになった。

これはイタリア戦争1494-1559以降の主権国家体制への移行を反映したものと見ることもできる。



シェイクスピア時代の劇場：上から見るとドーナツ形で中央部は屋根がなく昼間の上演では陽光が入る。伴奏音楽はあったが、舞台照明もSE(効果音)も、もちろんPA(拡声装置)もない。舞台転換後に最初に登場した役者は詩的な美しい台詞で観客に場景を説明した。効果音もないので、嵐の場面では衣装を翻し身をかがめて「風よ吹け！」と叫んだりして感じを出した。現代英語に近いが、諸君が原典で厳密に読むには、一種の英語の古語辞典(シェイクスピア・グロサリー)が必要になるだろう。

⑬ ファン=ダイク 1599-1641 Van Dyck

フランドル派だが主にイギリスで活動。チャールズ1世などの肖像画を残した。

ファン=アイク兄弟(ネーデルラント 1366?-1426, 1380?-1441 Van Eycks)との混同注意

《スペイン》

⑭ 【15:】 1547-1616 Cervantes レバントの海戦で負傷。様々な遍歴を経た。

『ドン=キホーテ』は、時代錯誤の正義の騎士、ドン=キホーテと現実主義者の従者サンチョ=パンサが巻き起こす滑稽な物語。滅び行く騎士道を描きながらスペイン社会の矛盾を鋭く風刺した**スペイン風刺文学**の代表作。

ヨーロッパには風刺文学の伝統がある。ルネサンス期ではないが、アイルランド生まれのスウィフト(1667-1745 Swift)はイギリス風刺文学の最高傑作『ガリヴァー旅行記』(1726)を著した。

《フランス》

⑮ 【16:】 1533-92 Montaigne 宗教改革の渦中にボルドー市長に就任、ユグノー戦争の調停に奔走した。著作、『随想録』は、公私にわたり近代人としての内面生活を探求した随筆である。

⑯ パスカル(ブレーズ=パスカル) 1623-62 Pascal 数学者、物理学者、哲学者、宗教者

『パンセ』は遺稿集。……「人間は考える葦である」「クレオパトラの鼻、それがもう少し低かったら、大地の全表面は変わっていたであろう」

仏語「パンセ」=「思考」

《スペイン》

⑰ [画家] 【17:】 1541?-1614 El Greco クレタ生まれだが、1577年以降、スペイン(トレド)に定住。エル=グレコとは「ギリシア人」を意味するあだ名。ヴェネツィア派に学び、肖像画のほか、宗教改革に対抗し、幻想的な宗教画を多数描いた。後のバロック様式に通じるものがある。